

母の 697 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

子どものそばにある短歌②／千葉聡 2
作家と画家がであうとき① 「がたごと がたごと」／内田麟太郎 3
デビュー十周年& 『ちいさな宇宙の扉のまえて』
刊行記念インタビュー／いとうみく 4
わたしの原風景⑩／八百板洋子 6
とっておきの1作⑦／中川理恵子 7
イラスト／下田昌克



大好きなジャングル

松岡達英

地球には植物、昆虫、魚類、爬虫類、哺乳類、鳥類、両生類など多種多様の生き物が生存する。それも地球全体に分布している。すべて観てやろうと思っても無理なので、せめて大好きな昆虫だけでも、と思っている。そしてこんな楽しみを与えてくれる地球に生きてきたことを幸せに思う。

虫採りや魚採りが大好きな田舎の少年が、5年生の夏に、図書館で出逢った本が『マレー諸島』。著者はアルフレッド・R. ウォーレス。彼が今日まで、私の人生の伴走者。150年ほど前、アマゾンや熱帯アジアの自然探検を行い、体験を通して進化論に考えつき、ダーウィンと共に学会に発表するはずだったが、様々な理由があって彼の名は進化論に残らなかった。さぞかし悔しい思いをしたらろうが、ほとんど科学者が行っていない熱帯の自然の中に立ち、極彩色の花々に舞う鳥も虫も、未だだれも採った事もない新種ばかりという、そんなことは今日では絶対にできないので、私からすれば羨しい限りの体験だ。

彼が、豪州区と東洋区の動物分布の境界線を発表し、進化論に結びつけた「アラフラ海」に私も訪れたことがある。世界最大の蝶・トリバネアゲハを追いかけて、ウォーレスと同じ種を手にし、1世紀前にタイムスリップした感覚だった。この旅を皮きりに、アマゾン、パタゴニア、アフリカなど数え切れない観察や採集の旅をしてきたが、世界は広すぎて、まだまだすべてをまわり切れそうにない。

地球の生物に興味を持つ世界中の子ども達に「ジャングル」の楽しさを伝えたいと、いつも思っている。新刊絵本『おふろのなかのジャングルたんけん』は、遥か遠くにあるアマゾンや中米に、いかに子ども達を誘う入り口を作るか、苦労した。色々考えた結果、お風呂での1人遊びにいきつき、あとは、楽しかったジャングルの経験を思い浮かべ、まるで旅行している様な気分で創っていった。

アマゾンをはじめ、世界の熱帯のジャングルは材木の輸出や農地の開拓で切り倒され、ものすごいスピードで減っている。これに反してプラスチックなどの廃品は、毎日捨てられ、海や山は汚れていく。地球はそこに棲んでいるすべての生物のもの。人間だけが勝手に壊していいものではない。世界一美しいジャングルの国・中米コスタリカは、軍隊を持たず、税金の多くを教育に使い、国民に自然保護の意識が浸透している。生きているうちに、この国の素晴らしいジャングルで、マナティやナマケモノ、モルフォチョウに、もう1度逢いたいと思っている。(まつおか たつひで/絵本作家)

子どものそばに ある短歌

2

散歩という大仕事 千葉聡

みどりごと散歩をすれば人が木が光が話しかけてくるなり

俵万智『プーさんの鼻』

みどりは命の色。「みどり」は赤ちゃんのことです。

赤ちゃんを抱っこしたり、ベビーカーに乗せたりして、緑の葉が揺れる下を歩きます。なんて楽しいひとときでしょう。

でも、赤ちゃんとの外出は、大仕事なんですよ。紙おむつ、哺乳瓶、タオル、お気に入りのおもちゃ……。親は大量の荷物を背負います。この子が泣いたら、もし具合が悪くなったら、どうしよう。心配が、荷物を増やします。

散歩中も、転はないように、人にぶつからないように、注意してばかり。

そして、家に帰り、赤ちゃんをベッドに戻すと、ドツと疲れが出てきますよね。どうか荷物を置いて、ひと休みしてください。

よく見れば、かばんのなかのものは、あまり使わなかったんじゃないですか。それに、雨も降らなかつたし、赤ちゃんに手を振ってくれた人もいたし。

赤ちゃんにとっては、目にするもの、手に触れるもの、すべてが面白かつたでしょう。すれ違う人も、揺れる若葉も、陽射しも、「みどり」の友たち。

そういう素敵な時間を生み出してくれたのは、あなたなんです。

ちば さとし 1968年生まれ。歌人・高校教諭。著書に『短歌は最強アイテム』（岩波ジュニア新書）、『グラウンドを駆けるモーツァルト』（角川書店）などがある。

拝啓 西村繁男様 おなじ電車で乗ったから

内田麟太郎

あなたに私が初めて出会ったのは、ベトナム反戦野展の会場でした。早世したナベさん（渡辺勝義）に「絵が好きでしょ」と誘われたのです。

おなじ看板業界にいたナベさんは絵本作家を目指し、田島征三さんやあなたのお仲間でした。一九七〇年だったでしょうか。私は生まれてはじめて絵本を書く画家に遭遇しました。でも、そんな幸運な出会いを与えられながらも、自分も絵本の仕事がしたいという気持ちは湧いてきませんでした。

一九九五年七月。木葉井悦予さんが亡くなられ、お別れの会がありました。背骨を痛めた私は絵本の仕事を始めていました。酒で赤い顔の二人は同じ電車で帰りました。たぶん、その酒のお陰だったでしょう。シャイなあなたが「ぼくにも、絵本の話を書いてよ」といわれました。「ナンセンス

作家と画家が であうとき ① 『がたごと がたごと』

内田麟太郎・文／西村繁男・絵
1999年4月刊行



で、いじの。」「うんぬ」。

その数日後に絵本『がたごと がたごと』のテキストを、私はあなたに送っていたはずですが。なぜ、そんなに早く。それはかねてより西村繁男はナンセンス絵本が書けるのに、なぜどの編集者も頼まないのだろうと腹を立てていたからです。ナンセンス絵本を書けるという根拠は、あなたの絵本が雄弁に語っていました。

私はその絵本の名役者たちに、ただ働いてもらうだけでよかったのです。『やごうれつしゃ』『ぼくらの地図旅行』、雑誌「母の友」の表紙を飾っていた動物の歌舞伎役者たちなどを。

あなたはすぐに返事をくださいました。「ぼくのためだけに書いたテキストだと、わかった」のちに私はそのように、その画家だけに向けて書くテキストを、「オンラインユー・テキスト」と名付けるのですが。

そしてあなたは賢く情勢分析もされました。「内田さん。ぼくには、ありありと場面が浮かんでくるけど、このままだとどの出版社にも断られるから、完全ラフスケッチを書きます」

見事でした。絵本は童心社から出していたいただきロングセラーにもなってくれました。

ナベさんは笑ってくれていることでしょう。

電車は、『おばけでんしゃ』『むしむしでんしゃ』『たたたん たたたん』と仲間をかやし、いまも町を村を走っています。いいえ、こどもたちのこのころの中を。 (うちだりんたろう／詩人)



わたしの原風景

30

八百板洋子

やおいたようこ／翻訳家

イラスト／平澤朋子

『智恵子抄』の「樹下の二人」の一節、安達太良山は、わたしが生まれ育った家から見える山である。

ある年の夏休み、その山に家族みんなで登った。岳温泉からのリフトには乗らず、ふもとから重い荷物を背負って歩いた。

炎天下、笹やふの中をくぐり、急な坂をはい上がった。とてもきつかったので溪流に出たときは、ほっとした。そばの湧水の冷たかったこと――。体に浸み入るようだった。

山頂に近い「くろがね小屋」が見えたのは、もう、夕暮れどき。小屋に泊まるのかと思ったら、父と母が草地にテントを張りだした。姉も火をおこして、飯ごうでごはんをたきはじめた。しかたなく、わたしも弟たちと手伝った。

夜、くたびれ果てていたが、テントの外にでて見上げると、空いっぱい星があった。満天の星が降ってくる感覚――。山と空に抱かれているような、ふしぎな心地がした。もう、ずっと昔のことなのに、今でも、ふとその感覚がよみがえることがある。

山に登ってから、今までただ見ていた山を、どこか畏敬に近い気持ちで見えるようになった。そして、自分は、あの安達太良連峰に見守られているという心強さを感じた。その感覚は、わたしのなかの心象風景としていつまでも心の奥底にある。

二十代のころ、ブルガリアに留学したときも、青いバルカン山脈に故郷の山が重なった。遠い国に一人で来たけれど、ふしぎと淋しいと感じることはなかった。いつも、励まされてきたように思う。

その古里の山も、川や海も、十一年前の東日本大震災で大きな痛手をこつむった。先が見えないほど、はかり知れない多くのものを失ったという。

人と自然の再生には、時間がかかる。

それでも、山は変わらせずに、いつも、わたしたちを見守ってくれているような気がする。

とっておきの一作 ⑦

子どもが楽しむ

幽玄の世界

中川理恵子 なかがわ りえこ

豊岡短期大学講師。白百合女子大学
ほか非常勤講師。著書・論文に『巖
谷小波日記（自明治二十年至明治二
十七年）（翻刻と研究）』（共著、慶應
義塾大学出版会）『紙芝居の現場―
乳幼児が紙芝居と出会うとき』、『紙
芝居研究』創刊号）などがある。



てんから おだんご
高橋五山／原作 堀尾青史／脚本 金沢佑光／絵 一九七六年刊行

昨年、成人式を迎えた息子がまだ幼稚園に通っていた頃のこと、多くの園児が我が家で一緒に遊ぶことができました。始めのうちは楽しそうにしている子どもたちも、時が経ち疲れてくると揉め事が多くなります。そんな時の私の作戦は、二つ。

ホットケーキを焼くか、紙芝居を演じるか。ホットケーキの匂いが部屋に広がり始めると子どもたちは、皆穏やかになります。紙芝居の舞台をセツトし始めると、子どもたちは「二〇二〇として集まってきました。中でも息子は人一倍張り切って皆に声を掛けて回るのでした。

先日息子に「あの頃どの紙芝居が好きだったか？」と質問すると「『てんから おだんご』と即答。他の観客参加型紙芝居で盛り上がり過ぎていたことを記憶していた私は少し驚きました。

『てんから おだんご』は、ひなたぼっこをしているおばあさんの前に、天からお血や串やおだんごが音もなくすうーっと落ちてくるというシュールな展開の作品で、オチャ強いメッセージはありません。絵は、余白が多く、各場面は、白い背景におばあさんだけ、おだんごだけが最小限の情報で提示されています。胡麻のおだんごがあわててあんこのおだんごにぶつかると場面がユーモアと動きがありますが、その後、おばあさんが頓着なくおだんごを食べ、串やお血が天へ帰るまで、淡々と話は進み、全体を通して静謐さを感じる作品です。見終わった子どもたちの反応も静かでした。この作品が、息子

の一番のお気に入りであったことが意外で驚いたのです。

この紙芝居には、〈へはるの巻〉と〈あきの巻〉の二つの脚本が付いていますが、私は説明の少ない〈へはるの巻〉の脚本を演じています。あの世とこの世が渾然一体となったような、ご先祖様の温かい見守りを感じるような、ゆつたりとした不思議な世界観に惹かれるからです。

また、絵は、はり絵で創られています。色紙をハサミで切って創られたおばあさんと和紙をちぎって創られたおだんご。毛羽立つおだんごの輪郭は、おだんごに柔らかさとおいしさを与えています。そして、この曖昧な輪郭線は天から落ちてくる曖昧な存在のおだんごにぴったり合っており、作品全体に優しさをもたらしています。

息子がこの作品を好きな理由は「とにかくおだんごがおいしそうだった」というもの。子どもたちは、みんなと居る楽しさの中で、ゆったり、じっくり自分の心の中に独自の物語世界を広げておだんごを味わうことができているのでしよう。そういえば、ホットケーキを食べた後より『てんから おだんご』を演じた後の方が長く仲良し時間が保たれていたのを思い出しました。私は、子どもが作品の中の不思議なおだんごの味を自身の想像力で補って楽しめる『てんから おだんご』に紙芝居の底力を感じます。少ない情報量の絵、淡々としたストーリーだからこそ、観客の子どもたちに自分で想像する楽しさを教えてくれる作品なのです。

6月の新刊図書！

むしのたまごシリーズ

とんぼの ぎんちゃん うまれたよ！

ねもとまゆみ／作 たけがみたえ／絵
須田研司／監修

定価1430円（本体1300円+税10%）



ヤゴのぎんちゃんは大きくなると、ある夜、池を出ました。りっぱなギンヤンマになったぎんちゃんは、どんな卵をうむのかな？

単行本図書

ぼくは勇者を たすけたい

中松まるは／作
めばち／絵

定価1430円（本体1300円+税10%）



オンラインゲームで出会った「勇者」と、はじめて本当の友だちになれたぼく。でも勇者の正体はまさかの……女子!?

読者の声

ハートウッドホテル

①ねずみのモナと秘密のドア

ケイリー・ジョージ／作

久保陽子／訳 高橋和枝／絵
定価1430円（本体1300円+税10%）



とても心温まるおはなしです。こども新聞の紹介を読んで表紙の絵が気に入って、自分で読んでみたいと思い、買ったのですが、小学四年生の息子もとても気に入って、四巻まですべて揃えました。読んでいて優しい気持ちになれますね。

（神奈川県 K・O 四五歳）



とらこたんぼん
いらっしゃい
せなけいこ／さく・え
定価990円（本体900円+税10%）

遊びの広場で紹介されていて、子どもがとても気に入ったので購入しました。小さいころに読んだ懐かしさもあり、でてくる小物のカラフルさに新しさも感じて、親子でお気に入りの一冊になりました。

（東京都 M・K 三四歳）

絵本・ぼくたちこどもた
おしいれのぼうけん
ふるたたるひ、たばたせいいち／さく
定価1430円（本体1300円+税10%）



さととあきらが、おしいれの穴に指をつっこむところ、おでこに汗もできるんだよ、と言っているところには思わずクスッと笑ってしまいました。赤いミニカーやデゴイチが助けてくれるところなどは、「あ、良かった」とほっとしました。ねずみばあさんの印象は強いですね。子どもと共通の話ができてうれしです。

（茨城県 H・N 三九歳）



イラスト／下田昌克

2022年6月15日発行（毎月刊）
母のひろば 第697号
定価50円（年600円／送料とも）
発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03（5976）4181
03（5976）4402（編集）
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン：坂本梓 ロゴ：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円（送料とも）。



あとがき

●5/20、早乙女勝元先生の告別式に参列してきました。私は小学生で『猫は生きていく』に衝撃を受け、高校の時ご講演に感動し……早乙女先生がいらっしゃらなければ東京大空襲に思いを馳せることなどなかったでしょう。生涯をかけ人々に平和を訴えてこられた偉業に頭が下がります。最後に紙芝居『三月十日のやくそく』を出版できたのは大きな喜びです。◎

●南米エクアドルのジャングルの中で、先住民と生活を共にする高校の同級生がいます。彼の話にはいつも驚きと感動が伴っていて、聞いているこちらもその世界に魅せられます。松岡達英さんの新刊絵本は、ジャングルや生き物、自然の魅力がたっぷり詰まった1冊です。絵本を通して子どもたちに、その広い世界を感じてもらえたらと願っています。①